

大阪私立高等学校進路指導研究会より
令和 8 年 9 月 15 日

☆指定校推薦入試について

進路指導部が直接的に係り責任を負う入試であり、その業務は進路指導部の非常に大きな負担となっている。A I 導入を試みている学校もあるが、就職求人票のように書式が統一され簡潔に記載されていないために A I が募集要項を正確に読みとるところまでには至らず、業務軽減にはならないことが報告されている。

- 書類は郵送または学校訪問時に直接進路指導部に手渡すかをお願いしたい。学校訪問時に進路指導部以外の一般教員に、また大学等のイベントに参加した一般教員に書類を託すようなことがないようにしていただきたい。
- 郵送の際には他の書類と混同しないよう「指定校書類在中」と表に赤色で大書するなど表記の工夫をお願いしたい。
- 6 月中に（少なくとも 7 月上旬までに）連絡が欲しい。
- 推薦基準（出願資格）は簡潔かつ明確な記載を。
- 依頼書の必要事項の明記。
※「推薦基準・人数枠・出願期間（必着 or 消印有効）・試験日・合格発表日・手続締切日・選考方法・受験料・割引等の特典・奨学金」を募集要項などに点在させないこと。
- 統一した依頼書の書式。※次ページの依頼書の例を参照
- 出願資格の欠席の条件に通信制高校は除くという大学があり、そうした条件は非常にありがたいです。
- 出願書類の郵送方法を個人による個別の出願を原則としてほしい。
「学校一括、学部一括、個人」を明記し、一括とされる場合は返信用封筒を用意してほしい。
- オープンキャンパスなどで指定校に関する情報を生徒に伝えることは厳禁。
※指定校の情報開示前になることが多く、安易に指定校入試を勧めることになるため。
- 指定校推薦の案内をデータで受け取ることの検討。
- 面接で口頭試問を実施する場合、入試要項にその旨の記載と、内容の情報提供（過去の質問でも良い）を。
- 指定校推薦で不合格になった場合、時期的にも事後指導が難しいことを知ってほしい。

★指定校制推薦の依頼書（依頼内容のまとめ）を反映した一覧表のイメージ

1. 学部・学科・専攻コースごとの依頼内容

学部・学科等	人数	総評基準	他の評定基準	他の基準	備考
〇〇学部 △△学科	1名	3.5	かつ、国語 3.5以上	3年生1学期までの欠席日数が 15日以内であること	——
□□学部 ▲▲学科	2名	3.3	あるいは、外国語（英語） が3.5以上	あるいは、英語検定準2級以上 あるいは、TOEIC450点以上	総評4.5以上の場合は、入学金免除
◇◇学部 経済学科	うち 1名	3.4	——	「数学Ⅱ」を履修していること	——
◇◇学部 歴史学科		3.5	——	「日本史探究」あるいは「世界史探究」を履修していること	——

2. 出願期間 2026年11月1日（日）～2026年11月6日（金） 最終日（必着・消印有効）

3. 選考内容 試験日 2026年11月15日（日） 午前10時集合 場所：〇〇大学 ◆◆キャンパス

面接試験	小論文試験	志願理由書	その他
あり 個人面接 10分程度	あり（当日実施） 1500字程度 『〇〇』について	あり（出願時提出） 1200字程度	——

4. 合格発表日 2026年12月3日（木） 郵送にて

5. 手続き期間 1次手続き 2026年12月3日（木）～2026年12月25日（金） 入学金のみ
2次手続き 2027年1月22日（金） 前期授業料・諸会費

☆入試全般について

① 要項等に明記していただきたい事項

- 「専願・併願可」、「現役・浪人可」、「対象となる課程・科」
- 「合格発表日」・「追加合格の発表日や通知方法」
- 「調査書の発行枚数」※受験日程・制度によって各大学の扱いが異なる。
- 「前期授業料等諸費の猶予期間、相談できる場合の具体的な方法など」
- 「就学場所（キャンパスの所在地）」
- 「前年との変更点」

② 手続き上のお願したい事項

- 振込み手続きが複雑にならないこと。
- 入学手続きの納入金振込期限の延長。
- 前期授業料等（入学金を除くもの）の年度末あるいは入学後の納付。
- 入学確定者に対する卒業証明書・最終調査書の発行。※3月1日以降の提出にしてほしい。
- 既卒者の対応。※学校教育法施行規則第二十八条第二項より、卒業後5年を超えた受験生については、成績や出欠に関する証明書は発行できないので、当該の生徒についての証明書の提出を求める場合には、「卒業証明書のみでよい」、「調査書が発行できない旨の証明書」などと必要とされる書類を選定していただきたい。
- 活動報告書等が必要な場合は、紙媒体と電子媒体の両方を認めていただきたい。

③ 追加合格の対応

- 生徒に経済的な不利益が生じないような配慮。
- 追加合格者があれば、どこに合格したかという情報を4月末までに教えてほしい。

④ 入試全体について

- 人権に配慮した面接。
- オンラインでの面接や入試を実施する場合の日程や環境などへの配慮。
- 安易な受験科目数を削減。※特に入学後に必要になる科目への配慮（残してほしい）。
- 選択科目の平均点の差によって得点調整が行われる場合の情報提供。
- 年内入試（学校推薦型選抜・総合型選抜）後、一般選抜で合格枠が残っていないような状況にならないこと。
- インフルエンザ等感染症による病欠への対応を明確に示してほしい。
- 入学者選抜における変更等についての文科省の「2年前ルール」を守っていただきたい。

☆総合型選抜について

① 出願期間・入試日・合格発表日のルール厳守。

- エントリー（出願）・内定・正式出願などの日程が早くなり、早期の調査書の提出など、高校現場の指導に影響が出ている現状がある。学校推薦型選抜（指定校制）の募集の時期とも重なり、指導が大変複雑になる場合もある。2期制の学校の調査書発行の時期と指定校の学内選考の時期を勘案し、出願期日を9月中旬以降に統一していただきたい。

② 入試制度の詳細の明示。

- オープンキャンパスなどで入試のエントリー・出願をさせる場合（オープンキャンパスが選抜と直結している制度）は、本人や保護者が納得のいく上でのエントリー・出願になるように、制度の詳しい説明と明確な記載がほしい。
 - 選抜方法の多様化に伴って指導上混乱を招く事例が多く、採点基準の明確等、各大学の制度のわかりやすい情報提供をお願いしたい。
- ③ エントリー時、および出願時の高等学校への通知。
- 事前面談などは、授業日に当たらないこと。
 - エントリーで「合格」させたものを、書類を出して不合格にするのは、やめて欲しい。それなら「合格おめでとう」と書かないで欲しい。「一次通過」程度の表記にして欲しい。
 - 出願は9月であるものの、それ以前に実質的な選考を行うのはやめてほしい。
- ④ その他
- 総合型選抜が多様な受験方式を増やし、指導上多大な労力を要している現状がある。
 - 合格基準・評価の基準を明確にし、アドミッションポリシーに基づいた選考を行ってほしい。十分な面接等を行わないで合格しているケースが散見する。
 - 昨今、かなり多様化しており、指導する教員の負担になっている。個別対応が重要だが、的確に対応できる教員が少なく、一部の教員に負担が大きくなっている。

☆学校推薦型選抜について

- ① 出願時期の順守（11月1日以降）。
- ② 配慮を要する生徒に対する入試当日の柔軟な対応。
- ③ 推薦書の簡素化。
- 関東で進んでいる書式の統一化を関西でもお願いしたい。
 - パソコンで文章の入力ができるようにしていただきたい。
 - 文章を入力するのではなく項目をチェックする形式の推薦書も検討していただきたい。
 - 一人の教員が一時期に多数の推薦書を作成する現状がある。
 - 教員の作成する推薦書が、合否にどれぐらい影響するのかが分からない状況で、その作成に時間を取られている。入試は受験者本人の力を測ることが目的であるはずである。推薦書が合否に与える影響、その必要性を示してほしい。
- ④ 具体的な選考方法（面接・小論文・口頭試問）や内容等の明記。
- ＜面接について＞
- 面接必須となると担任や進路指導部の負担はさらに増大する。数万人規模での面接をどう実施していくのか、早く方向性を示してほしい。
- ＜小論文について＞
- 公募制推薦で小論文が課されることにより、個別対応の負担が増大して指導に混乱が生じている。昨年度は志望理由に近い内容が多く大きな影響はなかったが、今後の運用には強い不安がある。また、小論文や志望理由書は合否にほぼ関係ないと明言される大学も多く、生成AIに書かせて通るような意味のない行為になっているのではないか。小論文や志望理由書の準備・添削は個別対応が多く、担任や進路指導部の負担が大きいため、制度運用の見直しを

検討してほしい。

- 調査書や小論文をどのように評価し、得点化しない場合に何のために活用するのか、具体例を含めて明示してほしい。
 - 複数学部を併願する生徒にとって小論文は書き分けが難しいため、評価基準や今後の方針を明確にしてほしい。
- ⑤ 発表の方法、発表時間や発送日時（Web、学内掲示、郵送発送）の明記。
 - ⑥ 受験料の納付期間と出願期間への留意。
 - 祝日等の関係で極端に短いことがあるので留意してほしい。
 - ⑦ 入試要項の早期の発表。

☆合否通知・合格数の把握について

- ① 各入試結果の連絡。
 - 合否・成績の開示が難しい場合でも、受験者の名前は記載してほしい。
 - 追加合格を出す学校も増えているため、最終的な入試結果を送ってもらいたい。
- ② 入試結果の帳票のフォームや形式の統一化。※高校側としては整理がしやすい。

☆入学前教育（実施日や実施内容など）について

- ① 高等学校の授業・活動に影響が出ないことへの配慮。
 - 授業日や行事日に重ならないようにお願いしたい。また、私立高校では土曜日も授業があるので土曜実施は避けてほしい。
 - 併願可能な公募制で合格し、一時手続きをしている生徒に対して共通テスト直前に入学前課題の提出期限が設定されているケースがあった。生徒の受験計画に支障が出ないように柔軟に対応してほしい。
 - E-learning については、生徒が課題を達成するのに十分にパソコンを使えない状況で、かつ高等学校での対応が困難な場合は、別途課題を課すなど一定の配慮をお願いしたい。
 - 生徒の身体的な条件によって課題がこなせない場合などは、柔軟な対応をお願いしたい。
 - 生徒・高校に負担がかからないような課題等の内容と日程にしてほしい。
- ② 入学前教育の事前通知と連絡。
 - 入学前教育の案内は合格書類に入っていることが多く、高校が掌握できないことがある。入学前教育の有無や内容を事前に把握するために募集要項にも明記してほしい。
 - 大学へ登校する入学前教育の場合、出欠を必ず報告してほしい。
- ③ 学習の継続性・モチベーションの維持につながるプログラムの構築。
 - 合格後も学習を継続する意識を持たせる高大連携の取り組みであってほしい。
 - 内容を学力面だけでなく、大学生活に順応できるような内容も入れてほしい。
- ④ 経済的負担の軽減。

- 入学前教育の内容に関して、生徒の経済的負担が大きくならないでほしい。もし費用負担がある場合には、募集要項に概算でもよいので負担金額を明示してほしい。

☆資料等の送付について

- ① 学校案内・入試ガイド・願書などの送付数の削減。
 - 追加が必要な場合のために、申し込み用紙などを入れておいていただけると扱いやすい。
 - ポスターはA4サイズが望ましい。ポスターやチラシについては、PDFに加工して生徒に配付・配信することも可能であるため。大きさと枚数はその高等学校の状況に応じて考えてほしい。
 - 送付するものによって、メール便を使うのか、普通郵便を使うのかを考えてほしい。（メール便は到着までに日数がかかる場合がある。）
 - 郵送物が多数であると、開封や仕分けには時間を要し、重労働になることもある。必要な時に必要なものをデジタル情報・データとして取得できる方法にしてほしい。
 - 生徒に多くの情報があることがありがたいが、進路指導室や教室への掲示や資料の設置に限界があるため、ある程度の情報についてはWebにて案内してほしい。
- ② 封筒への内容物の簡単な記載。

☆学校訪問について

- ① お越しいただけることに感謝している。学校の情報を直接聞けることは貴重な情報源であるので、大切にしたい。事前連絡をいただければ十分な対応が可能になり、また失礼がない対応もできるので、学校訪問時のアポイント要望一覧の通り、必要な高校にはアポイントを入れてもらいたい。
- ② 可能ならば高等学校ごとの担当者を決めてほしい。その場合、担当者が変わってもその学校の状況をしっかりと引き継いでほしい。
- ③ 訪問前に高等学校のホームページをチェックし、基本的なことはつかんでおいてほしい。
- ④ 同じ大学の学部ごとに来校されることがあるが、まとめていただけると助かる。様々な情報が得られるのでメリットが大きいものの、校務が多用なため個別対応にも限界がある。
- ⑤ 高等学校の卒業生の在学中の情報を教えてほしい。
- ⑥ 求人票受付の時期など、多忙な時期には対応できない場合があることを知っておいてほしい。

☆その他

- ① オープンキャンパスでは、高校の指導を受けて参加している生徒もいるので、そうした意図を汲んだお声かけや説明をお願いしたい。
- ② 土曜日に授業等を実施している高等学校もあるので、オープンキャンパスは日曜日にも参加できるようにしてほしい。
- ③ Web出願の導入は便利である反面、メールアドレスを持っていない生徒の対応、プリントアウトやその後の確認作業も学校がほとんど行っている現状を知ってほしい。
- ④ 生徒が入試情報を得るためにホームページを頼ることが多くなっている。そのため最新の入試情報などが容易に得られるような、ホームページの構成をお願いしたい。

- ⑤ 出願要件に「欠席日数」の規定がある場合、通信制高等学校への転入学をした生徒は、欠席日数がほとんど引にかかる。そのためにも転入学後の頑張りを見てもらえるような規定がほしい。
- ⑥ 入試問題及び解答を PDF で公開してほしい。

以上